

## Assistant Language Teacher

このような観点から、「行橋レジェンドカード」は「英語学習×地域学習×国際理解×探求学習」という4つの学びを同時に実現できる、非常に効果の高い教育ツールであり、ALTとの協働による「国際化に向けた地域教育」を象徴する取り組みの一つです。

今年度から本格的に活用を考えているというこのカード。ALTたちも「課題解決型の学習が期待できる」「小学校でも、中学校でも単元に応じた活用ができる」「校区外の魅力にも気付いてくれることに期待」「英語Ⅱ難しいを打破できる」など、自分たちが手掛けたこのカードの活用を楽しみにしています。今後は、レジェンドカードと連動した、行橋の史跡・名所等の英語での解説動画の作成も計画しています。ALTの積極的な活動が、子どもたちと世界を繋ぐ大切な役割を担っています。

※現在、行橋市では8人のALTが活躍しています。



## Practice

オンラインの交流は、対話だけでなく、さまざまな「デジタル交換日記」という形で、いつでも日々の小さな発見やお互いへのメッセージを伝え合う環境を、西園さんと教育委員会との連携で整えています。こうした機会の創出が、子どもたちの将来に大きな影響をもたらします。どちらか一方が欠けていると成り立たないのが、海外オンライン交流、ICTと英語教育を掛け合わせた理想のカタチがここにあります。今後も、子どもたちの学びを豊かにする取り組みを積極的に行っていきます。



現地のあそび「Bottle Soccer(ボトルサッカー)」を紹介してもらっている様子。西園さんの「見えませんか?」の問いに、みんなで元気よく「〇」。



言葉が通じなくても、すぐに打ち解け、身振り手振りのジェスチャーで交流を楽しむ子どもたち。特に、全身ジャンケンは大盛り上がりでした。



# 子どもたちと世界をつなぐ、ICT × 英語教育

【問】ICT・英語教育推進係(内線1362)

## English education

**行** 橋市の教育の現場では、アントレプレナーシップ(起業家精神)教育や海外体験学習など、子どもたちが自分の人生を切り拓いていく力を養うことに注力しています。家庭の中で、スマートフォンやタブレット端末が必須アイテムとなっている現代の子どもたち。家庭だけでなく、学校でも一人一台のタブレット端末で「個別最適な学び」と「協働的な学び」を両立させ、学習意欲と理解度を向上させるICT教育を実践しています。

ICT教育に期待できる主な効果は次の4点です。①AIドリルなどを活用し、個人のペースや特性に合わせた「個別最適な学び」。②クラス全員の意見を瞬時に画面共有し、お互いの理解を深める「協働的な学び」。③動画やシミュレーション教材で「理解度と意欲の向上」。④タイピングや情報収集など「ITスキル(リテラシー)の育成」。このICT教育と英語教育を掛け合わせたユニークな教育方法が、行橋の教育の現場で始動しています。今月号では、その様子をレポートします。

## Unique initiative

**子** どもたちが大好きな「ポケモンカード」。これを彷彿させる「行橋レジェンドカード」は、行橋の名所や名物、歴史上の人物などを、子どもたちが好きなカードゲームに見立てた英語版のカードです。まず、見本のカードを教育委員会で作成し、その後ALT(外国語指導助手)と意見を出し合い、修正を重ねながら一枚一枚作成しました。約8か月の歳月をかけて完成したのが、30枚のレジェンドカードです。このカードはデジタル版も作成しており、デジタル版ではそれぞれのカード画面をタップすると英語で解説が流れてきます。どうですか? 皆さんも試してみたくありませんか。

このカードゲームは、単なる「地域紹介ツール」にとどまらず、教育・学習・地域活性化など多方面で大きな効果が期待できます。例えば、①実践的な英語発信力の向上②郷土愛の醸成③地域学習・教科横断的な活用④ALTとのコミュニケーションの活性化⑤多目的な国際交流・PRツール⑥課題解決型学習(PBL)への展開などが挙げられます。

## Local Legends Yukuhashi Card



難しい表現は使わずに、小中学生に分かりやすい英語で表記。左上には体力(強さ)を示す『HP(ヒットポイント)』を、下にはジャンルを示す『Type(タイプ)』を記載しています。



井上 全 さん

元小学校教員。現在、ICT・英語教育担当指導主事として子どもたちの教育に携わる。英語授業の経験はゼロでしたが、ALTとの交流からICT活用の重要性を学び、より高度な意思疎通の可能性を実感している。